



第6章

エリヤ



分裂した北王国に、イスラエルの王となったアハブという無力な男がいた(紀元前918年)。彼はサマリヤでシドン人たちと共に暮らしていた。シドンの人たちは、バアル神を礼拝する民族だった。アハブは、シドンの王、エデバアルの娘イゼベルを妻にめとった。



イゼベルは、大変熱心なバアル信者であった。彼女はイスラエルの神を見下し、バアル信仰を国中に広めていた。



全能なる神の預言者という者をすべて見つけ出し、殺してしまいなさい。バアルこそ我らの神です。

王には、オバデヤという、全能なる神を信仰する召し使いがいた。

神の預言者を見つけ警告せねば...



オバデヤは、100人の神の預言者を洞穴の中にかくまい、彼らに水や食料を運んだ。



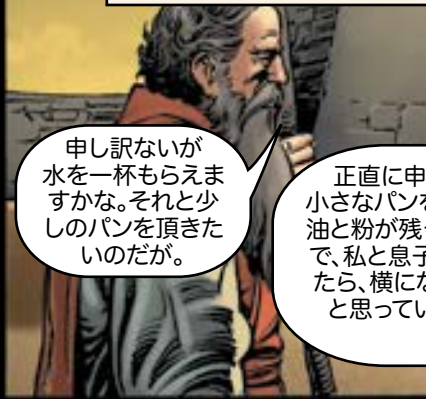
しかし、神の預言者でただ一人、隠れることを拒んだ者がいた。エリヤである。



アハブ王よ、あなたは、父祖の神を捨て、奥方イゼベルの邪悪な神に従っておいでです。全能なる神は、この私が命ずるまでイスラエルの地に、雨どころか一滴のしずくさえ降らないであろう、と仰せられている。

ハッハッハ、お前は預言者か！この国には1000人ももの預言者がいるが、彼らは干ばつなど起こらぬと言っておる。現に過去何年もの間、十分に雨には恵まれておるではないか。見せ掛けだけのベテン師め！そこをどけ！

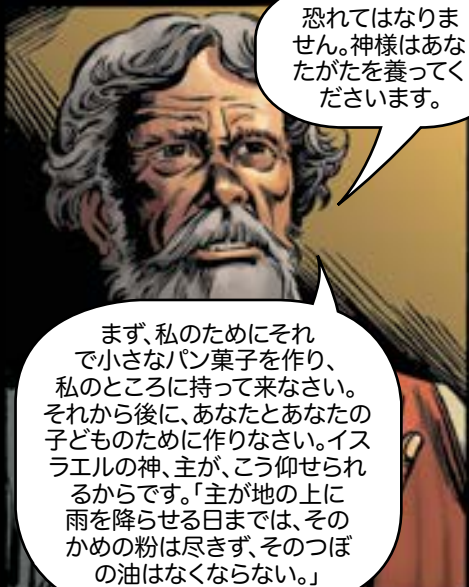
ききんがひどくなるにつれ、人々は飢えて命を落としていった。偽の預言者達は、バアルに助けを求めたが、バアルは応えてくれなかった。雨どころかしずくさえ降らず、干ばつは続いた。その頃、神はエリヤを一人の未亡人の家に使わした。干ばつが終わるまで、その未亡人がエリヤに住む家と食事を提供してくれる、と神は仰せられた。



申し訳ないが水を一杯もらえますかな。それと少しのパンを頂きたいのだが。

正直に申し上げますと、小さなパンを二つ焼くだけの油と粉が残っているだけなので、私と息子でそれらを食べたら、横になって死を待とうと思っていたところです。

もう、希望は残っておりません。神様は私達の罪に、裁きをお下しになっているのです。



恐れてはなりません。神様はあなたがたを養ってくださいます。

まず、私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。イスラエルの神、主が、こう仰せられるからです。「主が地の上に雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくならない。」



本当だわ！かめには粉が、つぼにも油がまだちゃんと残っている！



使っても使っても、ちっとも減らないよ!

奇跡だわ! 神様は素晴らしいお方です!

その後2年間に渡って、3人は、かめの中の粉を用いてパンを焼き、食べ続けることが出来た。



ある日、未亡人の家にもいつも通り帰ってきたエリヤは、彼女の息子が亡くなったことを聞かされた。

熱病におかされ死んでしまったんです。



私が何か、あなたを傷つけるようなことをしたでしょうか。あなたは私の罪を思い知らせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。

イスラエルの神を信じるのです。



私の神、主よ。どうか、この子のいのちをこの子のうちに返してください。



神はエリヤの願いを聞かれたので、子どものいのちはその子のうちに返り、その子は生き返った。



アブラハム、イサク、ヤコブの神、主よ、感謝いたします。あなたこそ真実の神であります。

イスラエルの神は生きておられる。

私の息子!

ききんは3年にわたって続いていた。民は飢えていたが、それでも偽りの神に対するバアル信仰を止めなかった。

なぜバアルは、我らの祈りを聞いて、雨を降らせてくれないんだ。

もしかするとバアルは口がきけないのかもな。きっと耳がないだろう。

イゼベルとアハブはききんをエリヤのせいにした。彼らは国中はもちろんのこと、隣接する国々まで兵を送り、エリヤを探した。エリヤを見つけ次第、殺せというのが彼らの命令であった。

アハブ王よ、私を探しておるのかね？

このイスラエルをききんで苦しめているのはお前だな。

エリヤを渡せ！彼をかくまうとお前も死ぬことになるぞ！

偶像礼拝をしているあなたこそが、イスラエルを苦しみに追いやっているのです。全能なる神と、バアル、どちらがまことの神か、勝負してみようではないか。あなたがたの預言者850人を集め、カルメル山まで連れてきなさい。

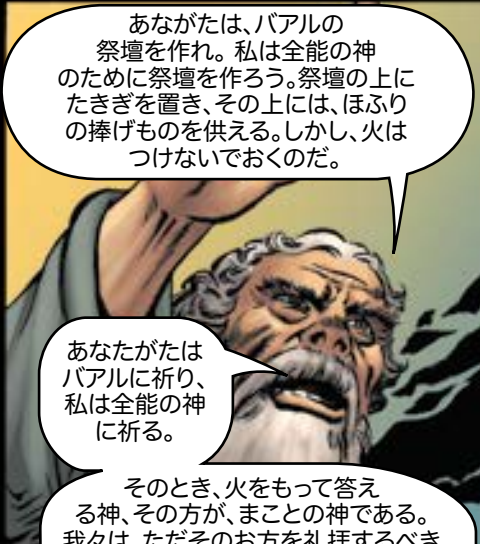
勝負だと？面白そうだが、受けて立つのではないか。

数日後カルメル山にて

あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え。

バアルの預言者たちよ。私はあなたがたに挑む。どちらがまことの神であるか、真実をつぎとめようではないか。


どっちが本当の神か調べるってわけか。で、どうやって見極めるんだ？




あなたが、バアルの祭壇を作れ。私は全能の神のために祭壇を作ろう。祭壇の上にたきぎを置き、その上には、ほぶりの捧げものを供える。しかし、火はつけなくておののだ。

あなたがたはバアルに祈り、私は全能の神に祈る。


そのとき、火をもって答える神、その方が、まことの神である。我々は、ただそのお方を礼拝するべきである。あなたがたのほうが人数が多い。先に始めていいぞ。




おおバアル、すぐれた偉大なる我が神よ。




天の女王よ。バアル神を助けたまえ。




バアルよ。今こそ我らの祈りに答えたまえ。偉大なる名のもとに、このいけにえを捧げます。



もしバアルが神なのなら、きっと何かに没頭しているか、席をはずしているか、旅に出ているのだろう。



もしかすると、寝ているのかもしれないから、大声で呼んで起こしたらよかろう。



このうす汚れた布だもめ！もっとうまくやれんのか！

あきらめるのはまだ早い。我々自身を傷つけてみよう。きっとバアルもお喜びになるはずだ。

バアルの預言者達は、絶望的になりながら、バアルのもとに声が届くようにと、自らの身体を傷つけ、地面に倒れ込み、叫び声をあげながら祈り続けた。

ぎゃあ〜っ!!

うお〜っ!

バアルよ、私の血を捧げます。どうか祈りを聞きたまえ! 火を送りたまえ! 真実の神であると示したまえ!

ひいん〜!

はっはっは、なんという姿だ。答えもしない神に向かって、9時間も叫び続けるとは。もしバアルがまことの神であるならば、彼はこの機会を逃さずにそのことを証明したであろうに。

さあ、今度は私の番だ。近づいて、私のすることを見ろのだ。

バアルよ、なぜ答えてくださらないのか。



なぜ、あんな深い穴を掘っているんだ？

暗くなるまで時間稼ぎしているだけだろうよ。

いつ祈り始めるんだ？穴掘りの勝負ではないんだぞ。

四つのかめに水を満たし、この全焼のいけにえと、このたきぎの上に注げ。

水だと？濡れてしまつては火はつかぬぞ。



気でも狂つたのか。日暮れまでもたないな。

まだ完全にぬれていない。あと4杯分の水を注ぎなさい。

血迷つたか。王はよく勝負を引き受けたものだ。



はっはっは。生ける神にとって、不可能なことなどありえようか。さらに4杯分の水を注ぎなさい。あなたがたはイスラエルの神を知るようになるだろう。そしてその名は、バアルではない、ということ。

王の怒りは相当なものになるだろう。



さがりなさい。

もっと。

後ろにさがっているのだぞ。



アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであること、そしてこの民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださることを知るようにしてください。



ゴォー!

うわああ

パキツ

ひいー!



アブラハムの神よ!

焼けてしま
いそうだ!

天から
の火だ!

助けてく
れー!



アブラハム、イサ
クの神は火をもっ
て証明されたのだ。

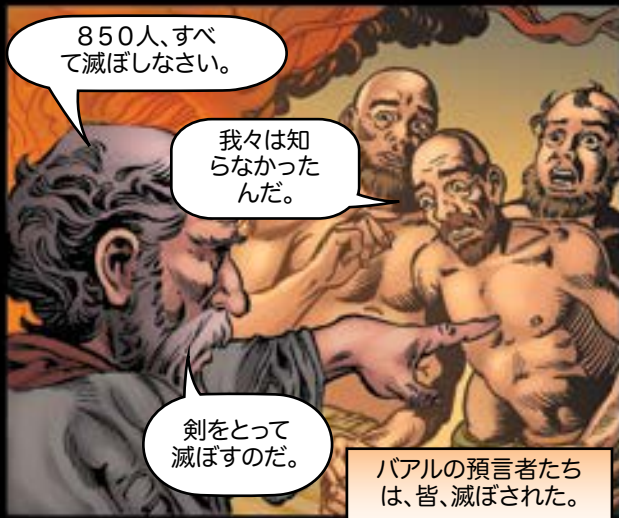
岩や土ま
でも焼き尽く
している。

形のない神が
なぜ、この様なこ
とができるんだ?



モーセは我々に、
全能の神こそが唯一の神
であり、ただそのお方だ
けを礼拝せよ、と命じている。
イスラエルの子孫たちが、
他の神々を礼拝すれば、その
者たちは死をもって罰せら
れる、と言われたのだ。

許してくれー!
どうか情けを!



850人、すべて滅ぼしなさい。

我々は知らなかったんだ。

剣をとって滅ぼすのだ。

バアルの預言者たちは、皆、滅ぼされた。



王よ、あなたは食事をされたなら、すぐに家路を急がれよ。豪雨になりますぞ。



3年半ほど前、エリヤはアハブ王に、彼がそう命じるまで、イスラエルに雨は降らなくなる、と預言した。バアルの預言者たちが葬られ、民が再びまことの神を礼拝するようになったため、エリヤは雨が降るように命じた。

大雨によって川がはんらんすれば、家路を急ぐ彼らの行く手をはばむことになるため、彼らは、洪水に飲み込まれないように、大急ぎで帰路に着いた。

エリヤは、神の力を受け、宮殿までの30キロメートル以上の道のりを急ぎ、馬車の先頭を走り抜いた。



あなた、エリヤを殺してくれたのね。バアル様が雨を降らせてくださってる。

違うんだよ。エリヤは外にいる。彼は、我々の戦闘馬車の前を、カルメル山からここまで、ずっと走ってきたんだ。

ばかばかしい。どこの誰が戦闘馬車よりも早く走れると言うのよ。バアルの預言者たちはどこ？雨が降り出したお祝いの席をもうけなければ。

しかし、彼の神は火をも
って答えられたんだ。まさに
奇跡としか言いようがない。
我々の祭司達は手も足も出せ
なかった。民は皆、全能なる
神に立ち返ったのだ。



彼らはすべて
滅ぼしたよ。皆、
偽物の大嘘つきだ
ったからね。



なんですか？
あなたはなんという愚
か者なの！エリヤを殺
すべきだったのに！



私に何が出
来たと言うんだ？
怖かったんだよ。

私の祭司達
を滅ぼしただ
なんて！

あなたは愚か者よ！




あなた
は愚
か者よ！

どんな奇跡も、
エリヤをバアルの
怒りから守っては
くれないわ。

私はここ
を離れて逃げ
なければ。



エリヤは、神を信
頼する代わりに、
自分の命を守ろう
と、逃げ出した。



主よ。もう十分です。
私は全力を尽くしました。
どうか、イゼベルが私を見
つける前に、私のいのちを
取ってください。

お恥ずかしい限り
でございます。私はあ
なたを信頼せずに逃げ出し
ました。私は先祖たちにま
さらず、罪深い者です。
どうか私のいのちをお
取りください。

エリヤよ。
ここで何をし
ているのか。

イスラエ
ルの
人々はあなたの契
約を捨て、あなたの
祭壇をこわし、あな
たの預言者たちを剣
で殺しました。ただ
私だけが残りまし
た。彼らは私のい
のちを取ろうとね
らっています。

エリヤは、荒野を40日間歩き回り、ホレブの山、
シナイ山の洞窟にたどり着いた。その山は、かつ
てモーセが、神から十戒を受けた場所でも
あった。そこで神は、エリヤにお語りになられた。

外に出て、
山の上で主の
前に立て。

エリヤはその場に
立った。そのとき、
主が通り過ぎられ、
主の前で、激しい
大風が山々を裂き、
岩々を砕いた。し
かし、風の中に主
はおられなかった。

風のあとに地震が起
こったが、地震の中
にも主はおられなかった。

地震のあとに火があっ
たが、火の中にも主は
おられなかった。

神は、エリヤに、ご自身が
イゼベルよりもはるかに畏
れ多き存在であることを、
お示しになられたのである。

風が止み、地震や火が過ぎ去った後、エリヤは、かすかな細い声でお語りになられる神の声を耳にした。神はエリヤに、同じ質問をくりかえした。

エリヤよ。
ここで何を
しているのか。

エリヤはまだ学んでいなかった。彼は再び、自分の境遇を嘆きながら神に答えた。

イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています。

さあ、行って、エリヤをあなたに代わる預言者とせよ。

あなたはまだ知らないかもしれないが、イスラエルには、バアルにひざをかがめず、バアルに口づけしなかった者が7千人残っている。アハブの一族はみな滅ぼされなければならない。

エリヤは、牛を引いて畑を耕しているエリヤを見つけると、油を注いで彼を預言者とした。

預言者になるように、と主が仰せられたのだ。

私は牛を主に捧げ、今すぐあなたに付いて行きましょう。

ナボテという男が、ぶどう畑を所有していた。それは、アハブ王の宮殿のそばにあった。アハブは時折、窓からそのぶどう畑を見下ろし、その美しさに魅了されていた。そして、それが自分のものであったらよいのに、と思い始めた。考えれば考えるほど、その隣人の所有物がほしくてたまらなくなっていく。神の戒めには、「隣人のものを欲してはならない」という教えがあったが、アハブは全能の神をあまり気に留めなくなっていた。



この土地は、500年も前から先祖代々受け継がれてきた所有地です。法律では、親族以外のかたへ売ることは、禁じられています。

アハブ王は裕福であったので、そのぶどう畑を買い取ることにした。

ぶどう畑を私に売ってくれ。私の宮殿のすぐそばにあるのだし、そなたにはどこか別の、もっとよいぶどう畑をあてがおう。

神がそのようなことを、お許しにならないわけがありません。



あなた、どうなさったの？お食事もされず、なぜそんなに悲しんでおられるの？

ナボテが私にぶどう畑を売ってくれないんだ。

あなたは王よ。望むものは、何でも手に入れる力をお持ちのはずでしょ。貧しい百姓にふりまわされるなんて、とんでもない。私があなたに、そのぶどう畑を手に入れてさしあげますわ。



仕事が終われば
残りは支払うわ。
何も言わず早く仕事
にかかりなさい。

モーセの十戒の中には、「あなたの隣人に対して、誤った証言をしてはならない」という教えがある。



チャリン



あそこにいる
奴だ。

そうだ、
あいつが王は
死ぬべきだと
言っていた。

ああ、奴は
神が悪魔を送り、
王に取り付かせた
と言っていたぞ。

奴は死刑だ。

彼らはナボテを連
れ出し、殺した。



ほうら、あなた、
ぶどう畑はこれであな
たのものよ。冷酷非道でな
いと、この世は渡ってい
けません。強く生き残っ
ていかなきゃね。

素晴らしいと
思わんかね！私
に似合いのぶどう
畑だ。な、そう
だろう？

イゼベルは、バアル神
に悪事は見えていない
と思っていた。しかし、
天の神はすべてをくら
んになられていた。



エリヤ、アハブに会いに下って行け。今、彼はナボテのぶどう畑を取り上げようと、そこに下って来ている。わたしの言葉を彼に伝えるのだ。

あなたは、神から逃げることは出来ないのだ。あなたは所有物のために、自分の魂を投げうったも同然なのです。神は、あなたの一族すべてに災いをもたらされる。あなたの子孫や縁者は、子供といえどもすべて打ち滅ぼされるのだ。



アハブよ、主はこう仰せられる。「あなたはよくも人殺しをして、罪のないものから彼の所有地を取り上げたものだ。犬どもがナボテの血をなめたその場所で、同じ犬どもがまた、あなたの血をなめる。」

あなたはまた、私を見つけたのか。わが敵よ。



あなたは神の怒りをひきおこした。あなたの家の前で、犬がイゼベルを食らうことになるだろう。アハブに属する者で、町で死ぬ者は犬どもがこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。あなたの一族は、誰も名誉ある葬りをされないのだ。



これは主のお言葉である。すべてそのお言葉通りになるのだ。

お願いだ！
全能の神のために、
全焼のいけにえを
ささげるから。

エリヤの言ったことは全て本当に起こっているぞ。

アハブは神に全焼のいけにえを捧げたが、心から神に立ち返ったわけではなかった。

しばらくして、偽の預言者たちが、アハブ王に、軍に関することを助言しにきた。

ギルアデのラモテに行き、戦うのです。神はあなたに勝利をもたらすでしょう。

預言者は皆、そう申しているのか？

アハブ王、神は私に申されました。ギルアデのラモテに行けば戦いで命を落とされるでしょう。

アハブ王、あなたは神の御前で悪を働かれました。あなたは金の亡者である預言者達に助言を求めておいですが、彼らは嘘ばかり並べております。

ミカヤの言うことに耳をお貸しになってはいけません。神の預言者は彼だけではないのです。他に400人も預言者たちは、ギルアデのラモテに行けば、大きな勝利と成功を収める、と言っているのです。

ミカヤは不吉なことばかり申すのだな。

私は、主が御座にすわり、天の万軍がその左右に立っているのを見ました。そのとき、主は仰せられました。「だれか、アハブを惑わして、攻め上らせ、ギルアデのラモテで倒させる者はいないか。」

すると、あれこれと答えがありました。それからひとりの霊が進み出て、主の前に立ち、「この私が彼を惑わします」と言いました。

私が出て行き、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。

それはいい案だ。彼らは、その戦いで勝利を得る、と預言するが、王はその戦場でいのちを落とすのだ。出て行って、そのとおりにせよ。



主の霊が私を離れて行き、おまえに語ったというのか？

バンッ



いまに、あなたが奥の間に入って身を隠すときに、思い知るであろう。

なんだと、それも預言か？



この男を獄屋に入れ、私が無事に帰って来るまで、わずかなパンと、わずかな水をあてがっておけ。私が戦から戻ったら殺すのだ。

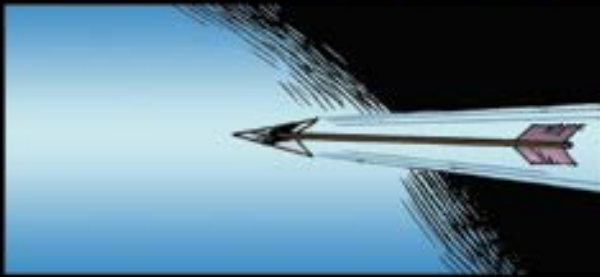
万が一、あなたが無事に生きて戻ってこられたとしたら、私は偽預言者となりますから、喜んで死の裁きを受けましょう。



一般の兵士に変装するとは良い考えですね。敵はあなたが王だとは気付きませんよ。我々の兵士達がうまくやってくれます。あなたが無事にお戻りになられた時の、あの預言者の顔を早く見てみたいものです。

まさしく、このかっちゅうを着けておれば、我に敵なしだ。

特に誰を狙ったわけでもないが、敵のひとりにあたってくれれば、と願って放たれた、とある兵士の矢が、空中を高く飛んだ。





残念
だが王は
亡くなられた。

鎧の隙間を矢
が射抜いたんだ。
亡くなる定めだ
ったのだろう。

まさか！
神様！



王の遺体は、
後できちんと埋葬
できるまで、ナボテ
のぶどう畑に安置
しておけ。

エリヤの言ったとおり、イゼベルの部屋
の窓の下で、犬がアハブの血をなめた。
彼が一族の中で最初にいのちを落とし、
他の者もその後続いていった。



馬車に残ったアハブ
の血を洗い流した兵
士は宮殿へ戻った。

王はどこです
かな？勝利を祝う
はずでしょう？

愚か者めが！お前は神の預言者ではない。ただの嘘つきだ！全能なる神の預言者であるミカヤの言った通り、アハブ王は死んだのだ。

そんなはずはない！敬虔な信者達は皆、アハブ王に勝利がある、と賛同していたのだ。

王が死んだからには、あなたは自由の身です。

皆ではないぞ。お前が殴って牢獄へ閉じ込めたミカヤは、そう言っていなかった。民がこのことを知ったら、おまえのいのちはないものと思え。

私には分かっておりました。犬が王の血をなめることは神がおっしゃったのですから。次はイゼベルの番で、王の系統は次々に死ぬことも神のお告げなのです。



逃げなくては...



まてよ、なんてこった！ミカヤは確か、私が奥の間に入って身を隠す時に、誰が神の御霊を受けているのか思い知る、と言っておった。

アハブの息子が即位した後も、イゼベルは女王として君臨し、12年の月日が流れていた。イスラエルの民は偽の神々を礼拝し、まことの神の掟に背き続けた。

12年後



神はアハブの一族に対して仰せられた。「時は満ちた。アハブの一族は、子供でさえもみな滅ばされなければならない。誰も生き残ることはない。イゼベルは犬に食われ、誰も彼女を葬らず、誰も彼女のために嘆き悲しむことはないだろう。」



エフー將軍が戦から戻ってくるから、化粧してきれいにしておかなければ。



私が支配者だということを知らせるためにも、ここに立って出迎えましょう。



誰か、私の側につくものはいないか？




將軍、我々が！

ならば、イゼベルを突き落とせ！


なんてことを！私は女王よ！



きゃあー！




神の仰せられた通り、かつて犬が、自分の夫の血をなめた同じ場所で、イゼベルはいのちを落とした。そして同じように犬がやってきて、彼女の遺体を食べ、その血をなめた。



遺体はそのままにしておけ!


ガル〜ツ



しかし犬達は、悪に染まったイゼベルの両手だけは食べなかった。

預言者が言ったように、アハブの家系の子孫は誰一人残らず、町の人々によって殺された。


町で死んだ者は犬がこれを食らい、野で死んだ者は空の鳥がこれを食した。埋葬された者は誰ひとりいなかった。まさに、罪の報酬は死であった。



エリヤが祈っていると、若い預言者たちがエリヤのもとにやってきて、神の言葉を伝えた。


神は、若い預言者の幾人かに語られました。きょう、あなたの主人であるエリヤが、天に取り上げられることを知っていますか？

はい、神様は私にもそうお語りになりました。でも、何も言わずに黙っててください。




エリヤ、お前はここにいなさい。私はエリコに行くつもりだ。

神かけて、私はあなたを行かせたくありません。あなたの行く所、私も参ります。




きょう、主があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。

私も知っているが、黙っててください。主人から目を離すわけにはいかないんだ。



エリコに留まっていなさい。ヨルダン川に行かなくてはならないのだ。

主は生きておられ、あなたのためにも生きています。私は決してあなたから離れません。



若い預言者達がまた、付いてきておる。

どうやって川を渡るかが問題ですね。今日は流れが速い。

乾いた地面を行くのだよ。



おおお〜!

見たか?水が割れて道が出来た!



ああ、まるでモーセを見ているようだ。



こんな光景を見られるとは…。

バアルの預言者達に見せてやりたかったな。



私はあなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に、求めなさい。

では、あなたの霊の二つ分け前が私のものになりますように。

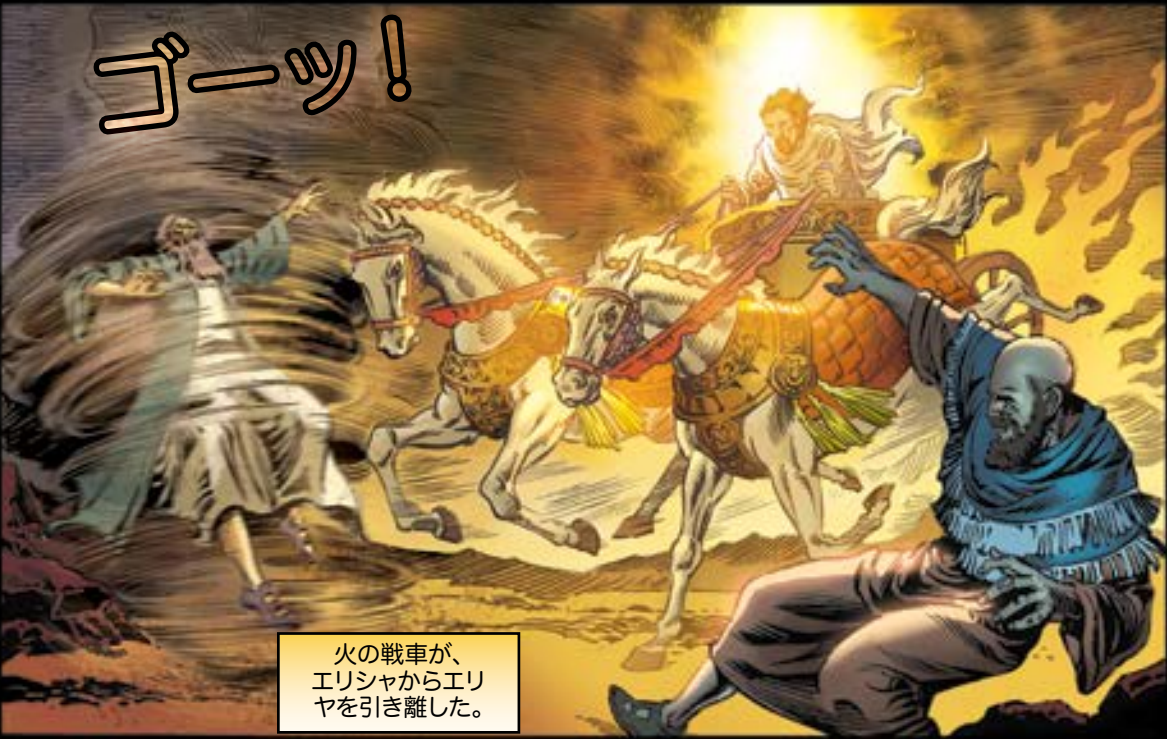
あなたはむずかしい注文をする。しかし、もし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことがあなたにかなえられよう。




神の戦車だ!

たつまぎだ!


ゴーツ!



火の戦車が、
エリシャからエリ
ヤを引き離した。



エリヤは、たつ
まきに乗って天
へ上って行った。



そして静けさが
戻った。エリヤは
神のご臨在の中へ
と入ったのだ。

残さ
れたものは
この外套だけだ。これ
を使ってエリヤは水を
分けられた。



エリヤの神、
主は、どこに
おられるの
ですか。



エリヤの霊
がエリシャの
上にとどまっ
ている。

パシヤ!

なんという日だ!



エリシャは出て行って、エリヤの2倍近い奇跡をなした。彼は神に忠実に従ったが、民は依然として、完全には偶像から離れられずにいた。

エリヤは
どこへ行っ
たんだ?

エリヤ様
を捜さ
なければ!

無駄だよ、エリヤ様は天に召されたのだから。